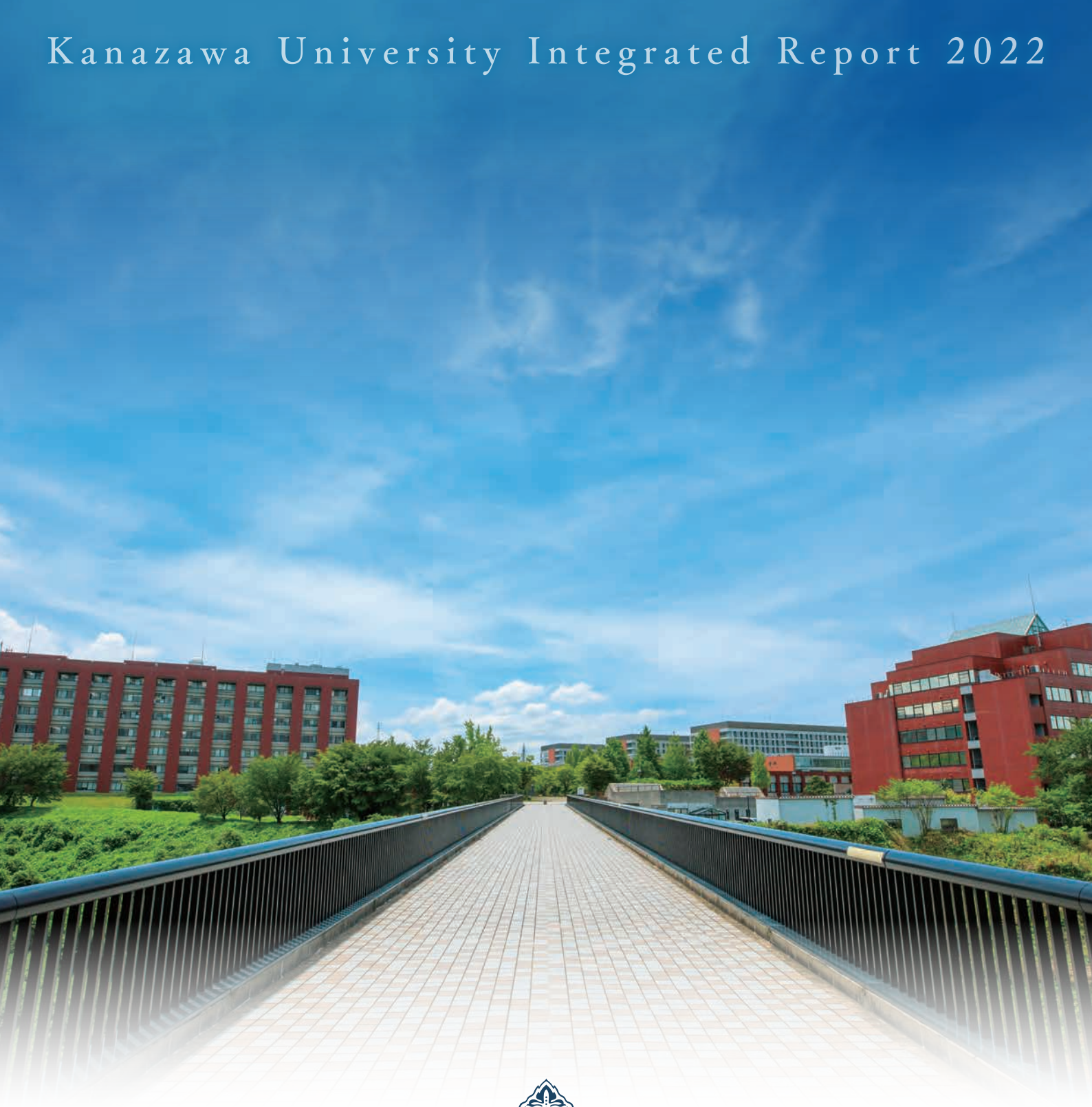
Kanazawa University Integrated Report 2022



金沢大学
統合報告書
2022

地域に愛され
世界に輝く金沢大学

ステークホルダーの皆さまへ

日本が明治維新を迎える直前，加賀藩のもとで金沢大学の礎は築かれ，2022年に創基160年を迎えました。また，同年４月には第４期中期目標・中期計画もスタートしました。

この節目の2022年度に，金沢大学のステークホルダーである皆さまへ，本学の研究・教育・経営等の状況を分かりやすくお伝えすることを目的に，初めて「統合報告書」を刊行いたしました。

この「統合報告書2022」を通じて金沢大学についてご理解を深めていただき，皆さまとの対話を重ねることにより，社会に貢献して参りたいと考えています。

金沢大学
統合報告書
2022

Contents

学長メッセージ …… 3
金沢大学未来ビジョン『志』…… 5
数字で見る金沢大学 …… 6
金沢大学の歴史・沿革 …… 7

活動実績
金沢大学×研究 …… 9
金沢大学×教育 …… 15
金沢大学×経営 …… 19

令和３年度財務情報
貸借対照表 …… 23
損益計算書 …… 24
セグメント情報 …… 25
コストの「見える化」…… 29
財務指標の比較とその傾向 …… 30

学長メッセージ

平素より本学の教育研究活動に格別の御高配を賜り，厚く御礼申し上げます。

金沢大学は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という基本理念に立脚し，「金沢大学未来ビジョン『志』」を掲げて「オール金沢大学で『未来知』により社会に貢献する」ことを目指しています。「未来知」とは，現在そして未来の課題を探求し，克服する知恵であり，かつ未来の価値を生み，未来の社会を創造するための知恵を意味します。

金沢大学未来ビジョン『志』の３本柱は，「独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成」，「社会の中核的リーダーたる『金沢大学ブランド人材』の輩出」，「人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現」です。学生・教職員，そして卒業生や産業界などの多くのステークホルダーの方たちを含む「オール金沢大学」で，これらの達成に邁進していく所存です。

独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成

金沢大学は，国立大学附置研究所の中で唯一「がん研究」に特化した「がん進展制御研究所」（1967年設置），文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」の採択拠点である「ナノ生命科学研究所」（2017年設置），文理融合型の新たな「次世代考古学」の確立を目指す「古代文明・文化資源学研究所」（2022年設置）など６つの研究所を有しています。これらフラッグシップ研究所群をはじめとして，優位性・独自性のある研究分野の伸長と実証研究の展開に全学を挙げて取り組んでいます。

2022年には，新産学連携研究拠点「バイオマス・グリーンイノベーションセンター」が竣工しました。2023年には，実証研究進展のエンジンとなる組織「未来知実証センター（仮称）」を設置します。学生・教職員のみならず，国内外の企業・研究者と共に最先端の人材が集まる場，基礎研究の深化や融合研究・実証研究の場として本学を発展させていきます。

社会の中核的リーダーたる「金沢大学ブランド人材」の輩出

金沢大学はこれまで，全国の大学に先駆け様々な教育改革を進めてきました。2008年に従来の学部学科制の垣根を超え，異なる学問分野が融合した学域学類制へと移行し，学士課程は現在４学域・19学類，大学院は７研究科を有しています。

そのなかでも特筆すべきは，文理融合教育の拠点として2021年に創設した「融合学域」です。イノベーター人材を養成する「先導学類」，従来の観光学に新たにデータサイエンスの視点を取り入れた「観光デザイン学類」を設けています。更に2023年には，スマートシティやスマートモビリティなどを学びのテーマとする「スマート創成科学類」を設置します。

また，イノベーション創出の芽となる気概あふれる博士研究人材を育成・輩出すべく，学生の博士課程への進学も後押ししています。経済的支援や学際性の涵養・キャリア形成支援等のプログラムを提供する「金沢大学博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクト」により，博士学位取得後の未来につながる一体的な支援を展開しています。

人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

社会とのサーキュレーションの確立のための連携体制を強化するとともに，大学改革の推進をとおして，社会からの期待に応えることができる組織を構築していきます。

社会とのエンゲージメントの中心となるのが，2021年に始動した「北陸未来共創フォーラム」です。北陸の産業界・国立四大学・自治体・金融機関等の連携のもと，多様な分野の人や組織が交流するための産学官金プラットフォームです。北陸の未来のために，オール北陸で新産業創出や人材育成に取り組み，日本の未来社会に向けた新たな地方創生モデルを創出していきます。

先駆的・戦略的な大学改革のためには，学生・教職員が自らの能力を最大限に発揮できるダイバーシティ環境が不可欠です。これまでのダイバーシティ実現に向けた取組を一層推進するために，2022年にダイバーシティ推進機構を設置しました。就労・修学等に従事するすべての者が，相互に，性別，年齢，人種や国籍，障がいの有無，性的指向，性自認その他の個性を尊重し合える共生社会の実現に向け，引き続き取り組んでいきます。

「金沢大学統合報告書2022」は，本学が「オール金沢大学」で取り組む多様な事業の実施状況や財務情報について，ステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に刊行するものです。本報告書が金沢大学に対するご理解の一助となることを祈念するとともに，本学の一層の発展のために引き続き御支援・御助言賜りますよう，お願い申し上げます。

金沢大学長　**和田　隆志**

PROFILE
和田　隆志
金沢大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。
金沢大学教授，金沢大学学長補佐，金沢大学医薬保健学域医学類長，金沢大学副学長（研究力強化・国際連携担当）を歴任。
令和２年４月，金沢大学理事（研究・社会共創担当）／副学長。
令和４年４月，第12代金沢大学長に就任。

金沢大学未来ビジョン『志』

研究のあるべき姿

独創的な世界トップレベルの
研究展開による
世界的研究拠点の形成

これまでの歴史と真理の追求を礎に，現在の課題を踏まえ，フォワード／バックキャストにより，多様性ある幅広い裾野をもつ基礎研究・応用研究・融合研究を推進します。また，社会実装に向けキャンパス内での実証研究を展開します。これにより，世界の「知」，最先端研究をリードし，社会的インパクトを生む総合知のイノベーションハブとして，未来知により社会の発展に寄与することを目指します。

教育のあるべき姿

社会の中核的リーダーたる
“金沢大学ブランド人材”の輩出

自己の使命を国際社会や地域社会で積極的に果たし，知識基盤社会の中核的なリーダーとなり，常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける人材像を，金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard: KUGS）として掲げています。このような「金沢大学ブランド人材」を輩出することを目指します。

経営のあるべき姿

人・知・社会の好循環を作り出す
持続可能で自律的な
運営・経営の実現

社会的インパクトを生む総合知のイノベーションハブとなるべく，学長のリーダーシップの下，教員と職員が協働し先駆的・戦略的な改革を推進します。多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた大学経営，資金・人・知が好循環する持続可能な運営・経営の確立を目指します。

数字で見る金沢大学

学生・生徒・児童数
11,801人
学域・総合教育部・別科　7,790人
大学院　2,370人　附属学校園　1,641人
（令和４年５月１日現在）

入学者数（学士）
1,769人
（令和４年度）

教職員数
4,019人
教員　1,332人　役職員　2,687人
（令和４年５月１日現在）

外国人留学生数
643人
（令和４年５月１日現在）

海外リエゾンオフィス
13か国29か所
（令和４年５月１日現在）

令和４年度予算
646億円
※石川県の 1/9　金沢市の 1/3

科研費
1,054件25億円
（令和３年度実績）

組織
4学域 19学類 7研究科 6附置研究所等

キャンパス総面積
257万㎡
角間キャンパス　2,008,565㎡
宝町・鶴間キャンパス　151,053㎡　その他　409,614㎡
※東京ドーム 55 個分

学術論文数
12,241件
（平成 24 年１月～令和４年２月）

特許保有件数
361件
（令和３年度末現在）

蔵書数
193万冊
（令和４年５月１日現在）

歴史
創基160年

自治体との協定数
36件
（令和４年５月１日現在）

外部資金
共同研究 **353件7億円**　受託研究 **670件28億円**　寄附金 **2,143件14億円**
（令和３年度実績）

金沢大学の歴史・沿革

「知識を養い，人を育てる場所を北陸にも」人々のそんな願いのもと，金沢大学の礎が築かれ，2022年に創基160年を迎えました。以来，今日までの長い間，磨き続けられてきた英知によって，新しい文化と伝統が創造され続けています。

1862 文久2年

加賀藩が種痘所を設置。現在の金沢大学（医学類）の源流となる。

1887 明治20年

官立の第四高等中学校を設置。
後に第四高等中学校を第四高等学校と改称（1894年）。

1949 昭和24年

金沢医科大学，第四高等学校，石川師範学校，金沢工業専門学校などが統合され，新制大学として金沢大学が誕生。
全国的にも珍しい"お城の中の大学"として親しまれる。

1967 昭和42年

がん研究所を設置。
国立大学附置研究所の中で唯一「がん研究」に特化した研究所。

1989 平成元年

角間キャンパスへの総合移転開始。

2012 平成24年

金沢大学創基150年。

2023 令和5年

融合学域にスマート創成科学類を設置。附属病院新中央診療棟の竣工。

2021 令和3年

融合学域を新設し，4学域18学類へ再編。

› 1862 › 1887 › 1949 › 1989 › 2004 › 2008 › 2012 › 2017 › 2021

附属小・中学校・幼稚園が平和町へ新築統合移転。

1995 平成7年

医学部附属病院新病棟が完成・移転。

2001 平成13年

国立大学法人金沢大学設立。
総合移転（第Ⅱ期）開始。

2004 平成16年

8学部を3学域・16学類に改組して新たなスタートを切る。

2008 平成20年

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に採択。ナノ生命科学研究所を設置。

2017 平成29年

金沢大学 × 研究

これまで誰も見たことのない生命現象を，観る，そして制御する

世界トップレベルの研究拠点形成へ －ナノ生命科学研究所－

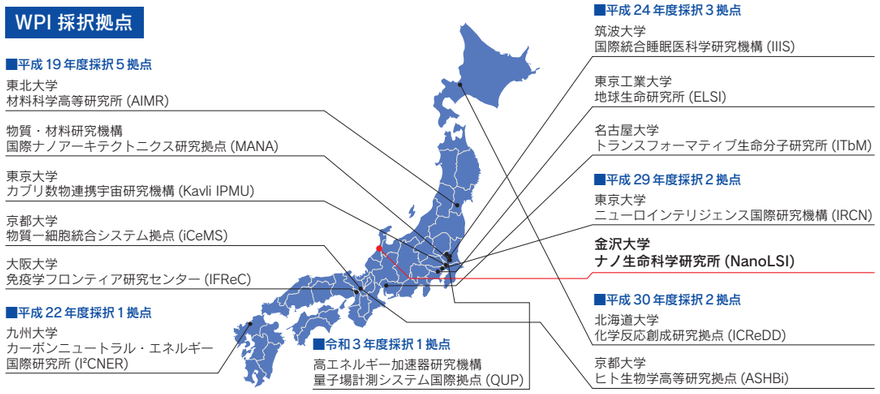
金沢大学は，平成29年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム」（以下，WPI）に採択され，「ナノ生命科学研究所」（Nano Life Science Institute（WPI-NanoLSI），以下『NanoLSI』）を設置しました。WPIとは，平成19年度から文部科学省が実施している，全世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と世界最高水準の研究を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指す事業です。

NanoLSIでは，1メートルの10億分の1，ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に，ナノスケールのものを観察できる最先端の「走査型プローブ顕微鏡技術」を核として，ナノ計測学，生命科学，超分子化学，数理計算科学間における異分野融合研究を推進しています。近い将来，生きた細胞の内部や表層を直接観察，分析，操作することができる世界初の「ナノ内視鏡（ナノプローブ）技術」を開発し，この技術によって生命の誕生や老化，「がん」等の疾患など，未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し，解明することを目指します。

令和２年９月には，角間キャンパス南地区に研究者が一つの建物に集結するアンダーワンルーフ型の新しい研究棟が完成しました。オープンな環境で分野の枠を超えた研究を更に加速します。

金沢大学ナノ生命科学研究所Webサイト
▶ https://nanolsi.kanazawa-u.ac.jp/

ナノ生命科学研究所棟外観



世界トップレベル研究拠点プログラム採択拠点一覧（令和３年度時点）

世界的研究拠点を目指す －超然プロジェクト－

世界的な研究拠点を形成し全学的な研究力強化につなげることで「世界に誇る金沢大学」を実現するため，平成26年度から「超然プロジェクト」を実施し，令和３年度までに８プロジェクトに対し支援を実施してきました。平成29年度には，このうち３プロジェクトを基盤とした「ナノ生命科学研究所」構想が，文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択されています。

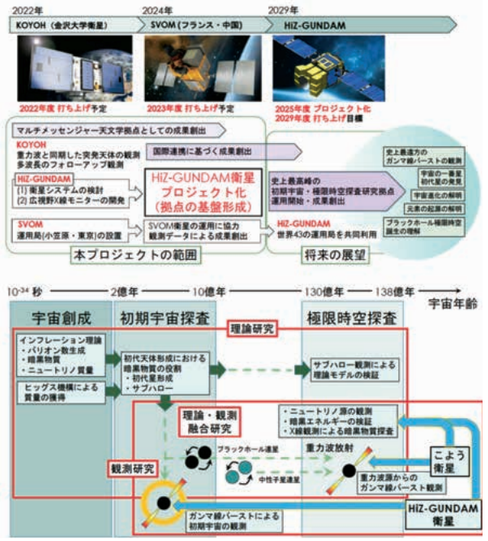
令和４年度から新たに２件のプロジェクトを対象として，優位性のある研究領域を重点的に支援しています。

金沢大学超然プロジェクトWebサイト
▶ http://www.o-fsi.kanazawa-u.ac.jp/research/chozen/

「宇宙創成・極限時空研究拠点の形成」

金沢大学で開発してきた小型衛星「Ｘ線突発天体監視速報衛星こよう」や海外の人工衛星計画「SVOM」により，重力波天文学を推進するとともに，宇宙で最初の天体が作られた頃の初期宇宙の理解を目的とした将来の人工衛星計画「HiZ-GUNDAM」のプロジェクト化を主導します。理論研究と併せてインフレーションによる宇宙創成やブラックホール時空誕生について研究します。

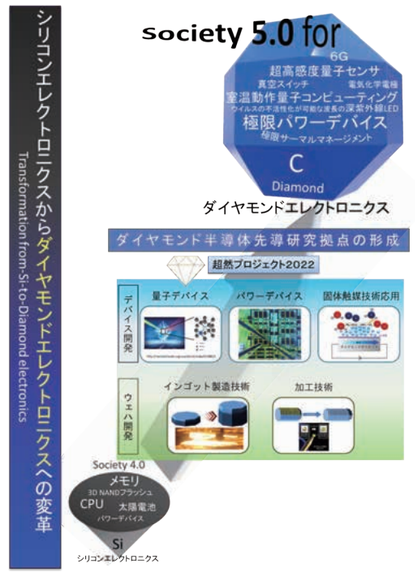
プロジェクトリーダー
数物科学系
米徳　大輔 教授



「ダイヤモンド半導体先導研究拠点の形成」

究極の半導体材料であるダイヤモンドの社会実装を目的とし，ウェハ開発として低コストかつ大量生産を可能にする“ダイヤモンドインゴット製造技術”，“ダイヤモンド加工技術”に関する研究と，カーボンニュートラルに資するデバイス・応用技術開発として“パワーデバイス”，“量子デバイス”，“固体触媒技術”に関する研究を加速させます。

プロジェクトリーダー
ナノマテリアル研究所
徳田　規夫 教授



文理融合型の新たな「次世代考古学」の確立 －古代文明・文化資源学研究所－

令和４年４月，人間社会研究域の域内センターであった古代文明・文化資源学研究センターを発展的に解消し，全学研究所として「古代文明・文化資源学研究所」を設置しました。

本研究所は，考古学部門，考古科学部門，文化資源学部門の３部門からなり，本学の強みである考古学・文化資源学の分野に革新的なパレオゲノミクスを融合させて格段の進化を図り，文理融合の新たな古代文明研究スタイルをもつ世界トップレベルの研究拠点形成を目指すとともに，世界的な文化遺産の調査研究や保護・保全に関して，世界を俯瞰するネットワーク構築を行い，我が国を代表する研究機関として日本の国際貢献に寄与し，SDGs達成に貢献する研究所を目指します。

金沢大学古代文明・文化資源学研究所Webサイト
▶ https://isac.w3.kanazawa-u.ac.jp/

バイオマス・グリーンイノベーションセンター

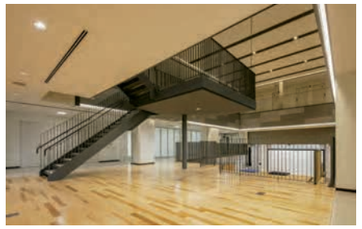
令和４年10月に竣工した「バイオマス・グリーンイノベーションセンター」では，「人の好奇心を形に，地球に自然の色彩を」の理念の下，バイオマス及びグリーンイノベーション研究の世界的な拠点形成を目指します。本研究拠点では，企業や大学，研究機関との新しい連携の形として「産産学学官官連携」を強力に推進し，バイオマス資源の活用によるセルロース新素材を用いた複合材料開発や，汚染水に含有する有害物を吸着・浄化する技術開発，社会実装に関する研究等を促進させることにより，脱炭素社会・脱石油，脱プラスチック社会の実現や森林資源活用への転換に向けたオープンイノベーションをこの地で起こします。単なる環境問題の解決を目指すものではなく，一企業では成し得ない革命クラスの産業化を協働企業とともに目指します。

建物内には，低層階中央にステップホール，高層階に実験・研究スペースをつなげるコミュニケーションボイドといった吹抜け空間を中心に配置計画された諸室を設け，オープンイノベーションを生み出す空間を創出しています。また，自然科学系の研究棟である既存の自然科学３号館と各階で接続することで，角間キャンパス南地区一体となった共創拠点の形成に寄与しています。

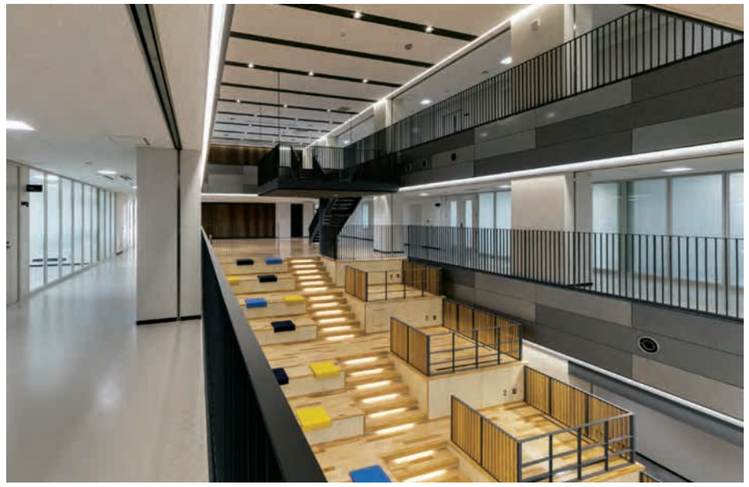
バイオマス・グリーンイノベーションセンター外観

エントランス

フレキシブルラボ


２階コモンスペース

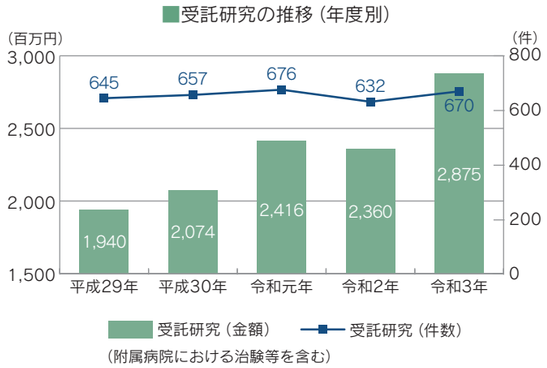
４階イノベーションラボ

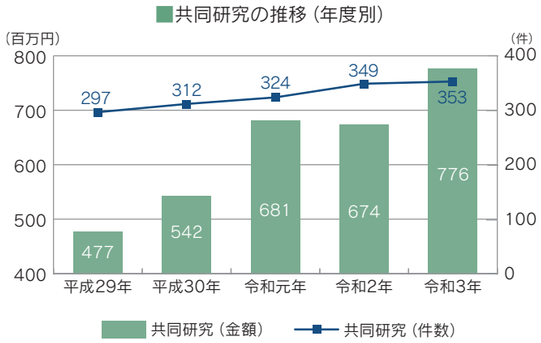

ミーティングや講演会に利用できるステップホール

受託研究・共同研究の状況

受託研究とは，本学の研究者が企業等から委託を受けて研究を行う制度です。また共同研究とは，企業等から研究費等を受け入れ，民間の研究者と本学の研究者が，対等の立場で共通の課題に取り組む制度です。優れた研究成果をいち早く社会に還元することを目指し，本学も積極的に推進しています。

受託研究については，JST共創の場形成支援プログラムの契約締結等により，令和２年度と比して，金額が大きく増加しました。また，本学の共同研究における実施件数及び実施金額は増加傾向にあり，令和３年度においては，株式会社アクトリーと産学連携の包括的推進に関する協定を締結し，同企業と大型共同研究を開始したことにより，令和２年度と比して，金額が大きく増加しました。



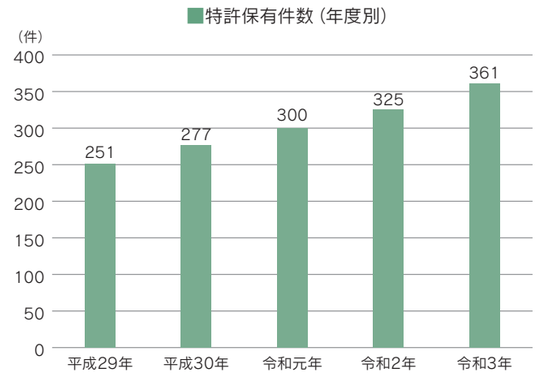


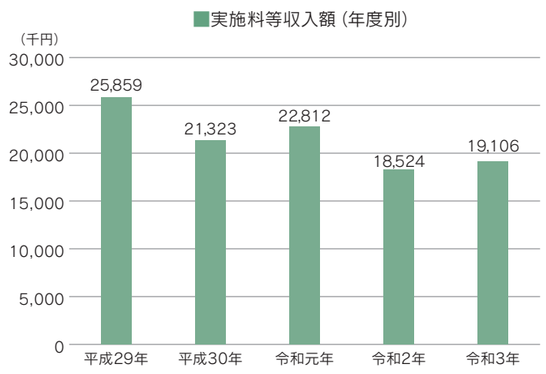
特許活用の状況

研究の成果によって生み出された大学の特許は，実施料収入等だけを得るのではなく，大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段として利用されています。

特許が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは，技術移転（企業へ特許の使用許諾をすること＝ライセンシング）による活用を図ります。

令和３年度の実施料等収入は19,106千円でした。消化器がんの遺伝子診断キットや原子間力顕微鏡，血液診断キット，電波可視化装置などにかかるライセンス技術が主力特許となっています。



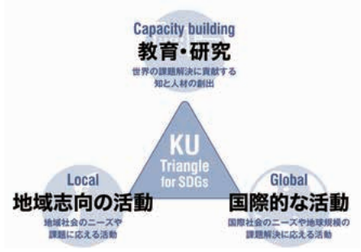


金沢大学と持続可能な開発目標（KU Triangle for SDGs）

金沢大学では，教育・研究，国際的な活動，地域志向の活動の３つを密接に連携させながら，持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています。

また，2020年より国連大学サステナビリティ高等研究所による「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」に参画し，2022年３月の総合討論では本学学生がパネリストとして登壇しました。2020・2021年度には，日本経済新聞社及び日経BPが主催する「日経SDGsフェス大阪関西」に参加し，本学の取組を紹介するなど，積極的な情報発信にも努めています。2022年10月に金沢大学を会場としたサステナブル・ブランド国際会議2022学生招待プログラム第２回SB Student Ambassador地域ブロック大会では本学学生２名が学生メンターとして参加しました。

本学では，今後も持続可能社会の実現に向けた貢献をより一層進めていきます。



社会との共創による学習・人材育成プログラムの提供

地域社会との共創による学習・人材育成プログラムの開発・提供をとおして，地域の皆様の多様な興味・関心や社会の要請に応じた学びの機会を提供し，生涯学習の振興や学びの「輪」の創出と循環に寄与します。

能登里山里海SDGsマイスタープログラム

世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を起点に，志を持って集まった様々な背景をもつ人たちの相互学習を通じて，地域の課題解決に貢献できる人材を養成しています。本プログラムは，珠洲市をはじめ能登地域の自治体等と本学との密接なネットワークを基盤として運営しています。令和４年３月末時点で218名のプログラム修了生を輩出し，修了後もそれぞれが活躍の場を広げています。

本プログラムは社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム」の認定も受けています。また，イノベーションネットアワード2018において文部科学大臣賞を受賞しました。

能登里山里海SDGsマイスタープログラムWebサイト
▶ https://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/meister/

<Topics>「能登の里山里海学会2022」を開催

令和４年11月12日，能登里山里海SDGsマイスタープログラム等を基盤とした研究・社会共創活動の発信のため，金沢大学能登学舎において「能登の里山里海学会2022」を開催。マイスタープログラム受講生，修了生，研究者，学生，地域住民の方々など約100名が参加しました。

当日は里山里海をフィールドにする研究者らが，口頭発表やポスターセッションをとおして，日頃の研究成果や活動の発信および情報交換を行いました。また，マーケットイベントやマイスタープログラム修了生による体験ワークショップを実施し，参加者は能登ならではの自然・文化資源とその活用について理解を深めました。

ポスターセッションの様子

ハーバリウム作り体験の様子

地域をフィールドにした学びと地域活性化・持続可能社会に向けた取組

地域企業や自治体等との共創によって，学生に「交流・体験・実践」型の学びを提供するとともに，地域活性化や持続可能社会に向けた新たなアイディア創出や課題解決にも取り組んでいます。

Project: AERU（アエル）

本学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の後継事業として，令和３年４月に始動しました。「いろんな人に『会える』／個性や強みを『和える』／みんなで学び『合える』」をコンセプトに，本学学生を対象に様々なプログラムを実施し，コロナ禍で減った学生と地域の「出会いと学びの機会」を創出しています。

出会う、つながる、学びあう。
Project:AERU

Project:AERU Webサイト
▶ https://www.kanazawa-u.ac.jp/society/distinctive/project_aeru

◇「AERU」の３つのアプローチ

＜STEP１＞ 雑談のチカラ × Project: AERU

「雑談のチカラ」は，本学の学生・教職員と地域の人々との気軽な雑談の場を創出する全学的交流事業です。職種・業種や立場などに捉われない自由な語り合いから，学生のキャリア形成，本学教職員や参画企業のアイデア創出などにつなげます。

AERUでは，本学学生向けのプログラムとして，地域企業や自治体，本学卒業生との「雑談のチカラ」を実施しています。

TOPICS：学生と地域企業との交流

雑談の際は対面開催を原則とするほか，企業見学や構内試乗運転をプログラムに加えるなど，討論がより深まるよう工夫しています。

＜STEP２＞ 地域体験型プログラム

石川県から隣県の富山・福井まで，キャンパスから地域に足を運び，多様な体験を通じて地域理解を深めるプログラムです。地域特有の文化の体験，地域資源を活かした生業の体験，地域の人々との交流を通じて，学生が地域に根付く働き方・生き方，モノの価値の本質を学ぶきっかけを創出しています。

TOPICS：南砺市学生サポーター

令和４年度に始まった富山県南砺市との官学連携事業。学生42名が文化体験や行事参加を通して地域の魅力発信に取り組んでいます。

＜STEP３＞ 目的達成型プログラム

情報発信や新商品開発など，企業・自治体からの要望に応じたミッションを学生に提示し，地域との共創により課題解決に取り組むプログラムです。前述の地域体験型との連動プログラムとして設定することが多く，学生に対してより実践的な学びを提供します。

TOPICS：加賀野菜の魅力発信

NHK金沢放送局の協力を得て，学生チームが加賀野菜「ヘタ紫なす」のPR動画を制作し，日本全国に向けて魅力を発信しました。

TO THE FUTURE 基金

学生が未来社会の中で自ら考え行動できる人材となるキッカケを掴んでもらうため，金沢大学ベンチャービジネスラボラトリーとも連携し，学生と社会で活躍する方々との接点を設けながら，様々なセミナー，ワークショップや交流イベントを開催しています。

こうした事業を幅広く展開するため，金沢大学基金に「TO THE FUTURE基金」を設置しています。

各企業・団体や事業者の皆様におかれましては，是非とも本趣旨へのご賛同を賜り，事業企画・運営への叱咤激励とともに，本基金へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

金沢大学基金Webサイト
▶ https://kikin.adm.kanazawa-u.ac.jp/kikin/

金沢大学 × 教育

学士課程を４学域・20学類に再編

平成20年度の学域学類制への再編改組から10年以上が過ぎ，これまでの教育実績等を検証し，機能強化を図るため，教育組織や入学者選抜等の改革を計画的に進めています。本学の強みを活かし時代の要請に応えるべく学類の再編を行い，学域・学類のダイナミックな交流の下，未来志向の研究に積極的に取り組み，より質の高い学びを提供していきます。

令和３年４月には，平成20年度の学域学類制導入以降，初めて新学域〔融合学域〕を設置し，最初の学類として社会変革先導人材の輩出を目指す「先導学類」を創設しました。令和４年４月には第２学類の「観光デザイン学類」を，令和５年４月には第３学類の「スマート創成科学類」を新設し，４学域・20学類での教育を開始します。

＼ 学士課程　4学域・20学類 ／

融合学域
- 先導学類　● 観光デザイン学類
- スマート創成科学類

人間社会学域
- 人文学類　● 法学類　● 経済学類
- 学校教育学類　● 地域創造学類　● 国際学類

理工学域
- 数物科学類　● 物質化学類　● 機械工学類
- フロンティア工学類　● 電子情報通信学類
- 地球社会基盤学類　● 生命理工学類

医薬保健学域
- 医学類　● 薬学類　● 医薬科学類　● 保健学類

融合学域観光デザイン学類の設置とスマート創成科学類の認可

観光は我が国の産業にとって重要な要素の一つであり，観光立国としての立場を固めつつありましたが，コロナ禍によりその状況が一変しました。今後求められるのは，従来の観光を再定義し，その価値をデザインでき，さらにそれをニューノーマル時代の新たな基幹産業へと発展させていく「観光価値創出人材」です。そうした社会の要請を受け，融合学域では，令和４年度に「観光デザイン学類」を設置しました。さらに３番目の学類として，スマート技術で新しい社会を創成する「未来科学創成人材」の輩出を目指す「スマート創成科学類」を令和５年４月にスタートさせます。

人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程の設置

令和４年４月からスタートした本学と富山大学が共同で設置した共同教員養成課程では，両大学の教員が学生の教育に携わります。これにより，学生はそれぞれの大学が有する強みを持った分野の科目を受講できるようになり，その授業を両大学に整備した遠隔システムによって自大学にいながら受講できる等，様々なツールを利用して相手方大学にも授業を提供していきます。さらに共同教員養成課程では，希望免許種と卒業研究をそれぞれ選ぶことができ，希望免許は特別支援，卒業研究は美術教育といった柔軟な選択を可能としました。

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）の展開

グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において，大学憲章に掲げる基本的な教育目標の実現に向け，世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材育成のため，本学独自の教育方針「金沢大学＜グローバル＞スタンダード」（Kanazawa University “Global” Standard；以下「KUGS」）」を定めています。

６つのスタンダード

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし，知識基盤社会の中核的なリーダーとなって，常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）

基準１	基準２	基準３	基準４	基準５	基準６
自己の立ち位置を知る	**自己を知り，自己を鍛える**	**考え・価値観を表現する**	**世界とつながる**	**未来の課題に取り組む**	**新しい社会を生きる**
鋭い倫理感と科学的知見をもって，人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置，自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り，その限界に挑戦し，知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し，かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力	他者への深い共感に基づいて異文化と共生し，各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって，世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向，自然環境変動，持続可能性などの多角的視座から地球と人類，国際社会と日本の未来を総合的に予測し，未来の課題に取り組んでいく能力	Society5.0 において，幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え，多様な他者との協働により未来の社会的課題を解決に導くための能力

基幹教育の定着及び深化・高度化

STEAM人材育成に向けた基幹教育の拡充

令和２年度採択の「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」において，「先導STEAM人材育成プログラム」の開設を掲げています。そこで，それらの土台作りとするべくSTEAM教育全学必修化を実現し，共通教育科目のGS（Global Standard）科目に６群を新設し，基幹教育の面からSTEAM人材の育成を支えています。

また，１年次に導入科目として全学必修の情報系科目を開講しており，令和２年度（保健学類のみ令和３年度）からデータサイエンスの基本的知識の修得を始めとして，コンプライアンス・モラル，基礎的情報リテラシー等を学修する「データサイエンス基礎」を展開。初年度からのSTEAM教育の拡充を図り，大学院博士前期・後期課程への展開も進めています。

データサイエンス特別プログラム ～もはやスペシャルではない。すでにスタンダードである。～

「数理・データサイエンス・AI」は，もはや特別な知識ではなく，日常の生活，仕事等の場においてそれらを「使いこなすこと」が当たり前の世界が既に到来しています。本学の学士課程入学者なら誰でも，本プログラムを修了することで，このことを理解し，実際に数理・データサイエンス・AI の恩恵を享受するための，デジタル人材としての基礎能力を身に付けることができます。

本プログラムは文部科学省からリテラシーレベルと応用基礎レベルの認定を全学類で受けており，多くの企業がこの制度を支援しているので，就職活動などでの自己PR等に活用できます。初年度である令和３年度の本プログラムの修了認定者は1,179名にのぼりました。

先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）

KU-STEAMは，全学域学生対象の文理融合学修プログラムで，自身の専門分野に軸足を置きながら，積極的に他分野の知見を深め，異分野・異文化協働を実践することによって，未来課題の解決に挑戦する，先導STEAM人材の育成を目的としています。大学が学びを認定し，修了証を交付することで，データサイエンス特別プログラムと同様に，就職活動など今後の進路に役立ちます。

KU-STEAM

日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ環境の醸成

オンラインでも！海外研修プログラムの実施

本学では，協定校への長期の派遣留学制度，語学研修や特定のプログラム等による短期留学制度があり，学生の積極的な参加を呼びかけています。大学公式の海外研修オンラインプログラムも開催しています。（令和３年度：24件に218名が参加）

▼派遣留学（３か月～１年）
アメリカ，イギリス，ドイツ，フランス，スペイン，ロシア，ベルギー，フィンランド，タイ等，225の協定校（令和4年10月現在）
※令和３年８月から派遣を再開しました

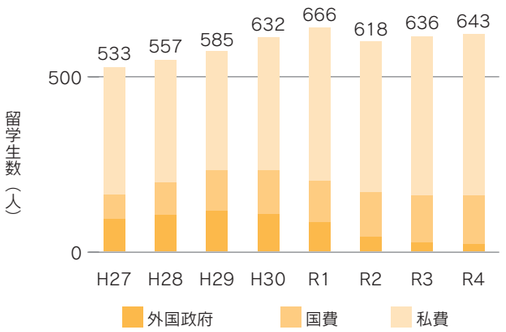
▼語学研修等短期海外研修（１～６週間）
ファーストステップ(タイ，ニュージーランド)，
インターンシップ(JTB，HIS)，英語研修（ワイカト大学），アントレプレナーシップほか

▼官民協働海外留学支援制度
～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～による派遣
平成26年度からの派遣数累計：97名

優秀な外国人留学生受入の促進

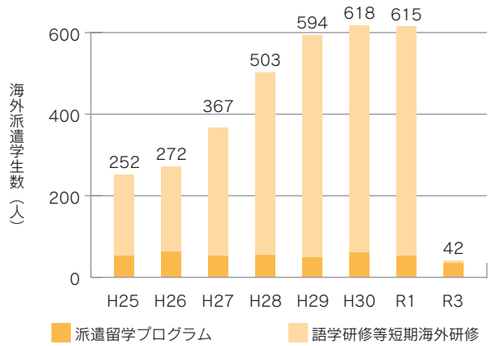
協定校からの交換留学生の受入に加え，政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等により，外国人留学生の受入に取り組んでいます。さらに，オンラインでの受入プログラムのほか，実渡航での短期・長期の様々な留学生受入プログラムを再開しています。（令和３年度：45件に518名が参加）

各年度５月１日現在



国際交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」）と相互に学生派遣と受入を行うとともに，様々な受入プログラムを通じて外国人留学生を受け入れています。授業や課外活動等を通じて，日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し，学び合える環境作りを行っています。海外研修プログラムのオンライン開催や，協定校とのオンライン交流等のほか，協定校への長期の留学では学生派遣を再開する等，コロナ禍においても学生交流及び学修の機会を広く提供し，国際学生交流の取組を推進しています。

現地の授業を金沢で受講



国際交流協定の拡充

本学は，世界52カ国１地域の機関と協定を締結し，なかでも重点的に学生交流・研究交流を行う重点交流校を定め，海外の卓越した大学との戦略的な教育研究連携を推進しています。

また，共同教育推進のため，27件の二重学位プログラム，ツイニングプログラム等を実施しています。

国際交流協定
▶ https://sgu.adm.kanazawa-u.ac.jp/international/category/agreement/

■総数306機関（52カ国１地域）　令和４年5月1日現在

国際交流協定地域別内訳	大学間	部局間	計
アジア	125	55	180
ヨーロッパ	35	20	55
北米	12	4	16
中南米	11	-	11
ロシア及び NIS	16	3	19
オセアニア	6	3	9
中東	8	1	9
アフリカ	3	2	5
国際機関	1	1	2
計	217	89	306

大学院の飛躍的な機能強化

本学は，未来課題を克服する知恵「未来知」により社会に貢献できる人材の育成を，目指すべき方向のひとつとして掲げています。

令和７年度に向けて

大学院博士前期課程・後期課程の拡充

学年進行に応じて以下の拡充を進めるべく，既に構想の検討を開始しています。

①医薬保健学総合研究科に，医薬保健学域医薬科学類に接続する大学院博士前期課程の専攻の設置
②融合学域に接続する新たな大学院の設置
③自然科学研究科博士前期課程に接続する博士後期課程の入学定員の増員

ＫＵＧＳを基軸とした大学院ＧＳ科目の全学必修化

令和４年４月には，大学院教育改革の一環として，専門職大学院を除く全大学院学生を対象に「大学院GS基盤科目」及び「大学院GS発展科目」を新設し必修化しました。これらの科目を履修させることで，すべての大学院学生に対して，博士研究人材として根幹をなすべき共通の資質を涵養することを目指します。

異分野横断型の大学院教育プログラムの構築・展開

本学では，我が国そして世界のイノベーション創出の芽となる気概あふれる博士研究人材を育成・輩出すべく，志高い博士後期・博士課程学生への支援を強化するとともに，特に本学学生の博士後期・博士課程への進学を後押ししています。

「金沢大学博士研究人材支援･研究力強化戦略プロジェクト」は，「ナノ精密医学･理工学卓越大学院プログラム」「大学フェローシップ創設事業」「次世代精鋭人材創発プロジェクト」の３事業を博士後期・博士課程学生に対する支援の大きな柱として，経済的支援をはじめ，研究専念環境の充実，学際性の涵養，キャリア形成等に向けた支援を強化することで，磨き上げる高い専門性と研究基盤力を礎に新たな知の創造に挑む挑戦的かつ学際的な研究に邁進し，社会に貢献する人材の育成を目指しています。

大学院進学・就職状況

本学の令和３年度卒業者（学士課程）の就職率（就職者÷就職希望者×100）は98.1%と，例年どおり高い水準で推移しています。また，学問探求への意欲あふれる学生や高度専門職を目指したいという学生を含め，本学は「大学院進学を強く推奨」しており，令和３年度学士課程卒業者の大学院進学率（大学院進学者÷卒業者×100）は31.4%です。

進路の特徴は，人間社会学域は官公庁への就職者が多く，理工学域は69.3%が大学院に進学しており，医薬保健学域は医療機関への就職者が多いことが挙げられます。

令和4年11月現在
単位（人）

区分		令和３年度学士課程卒業者 人間社会学域		理工学域		医薬保健学域		合計	
卒業者			777		623		395		1,795
大学院進学者(別科等も含む)		5.7%	44	69.3%	432	22.3%	88	31.4%	564
就職者 就職率98.1%(決定者／希望者)	産業界		415		131		25		571
	公務系・教員等		252		38		19		309
	医療機関		6		0		145		151
	起業・自営等		5		1		0		6
	就職者計	87.3%	678	27.3%	170	47.8%	189	57.8%	1,037
臨床研修医			0		0	25.6%	101	5.6%	101
その他(試験準備･帰国者･研究生等を含む)			55		21		17		93

区分		令和３年度修士・博士前期課程修了者 人間社会環境研究科		自然科学研究科		医薬保健学総合研究科		新学術創成研究科		合計	
修了者			43		420		111		18		592
大学院進学者		16.3%	7	7.1%	30	21.6%	24	38.9%	7	11.5%	68
就職者 就職率99.0%(決定者／希望者)	産業界		21		358		25		9		413
	公務系・教員等		3		11		10		0		24
	医療機関		0		0		42		2		44
	起業・自営等		0		3		0		0		3
	就職者計	55.8%	24	88.6%	372	69.4%	77	61.1%	11	81.8%	484
その他(試験準備･帰国者･研究生等を含む)			12		18		10		0		40

キャリア支援室がすべての学生のキャリア形成・就職活動を強力にサポート！

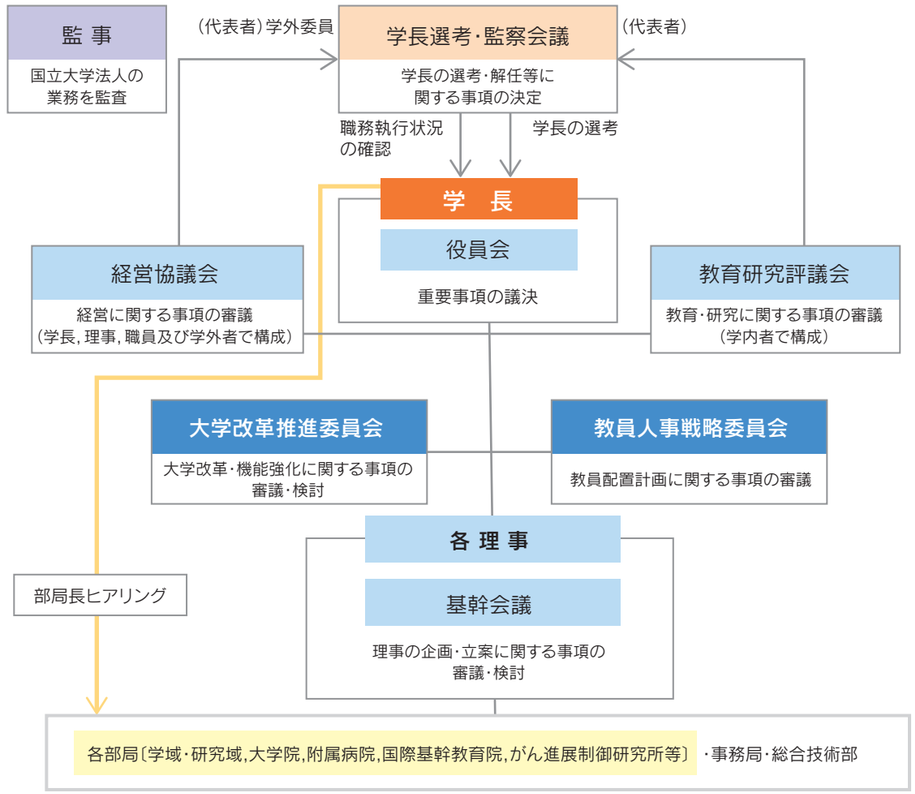
「大学院進学（修士・専門職・博士）」「留学・英語スキル向上」「就職（産業界・公務員・教員・医療職etc）」等多岐に亘る学生のキャリア形成・就職活動を，これまで以上に強力にサポートします。

また「留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト -Link KAGAYAKI- 」において外国人留学生の日本就職支援を行うことで，地域の産業界との結びつきを強め，北陸地域の活性化やプロジェクト成果の広範な展開も目指します。

金沢大学×経営

ガバナンス体制

本学では，学長の強いリーダーシップの下，積極的なガバナンス改革により，部局長ヒアリング等の戦略的なマネジメントを推進し，教育研究の質や教職員のパフォーマンスを最大化できる環境実現に向けた体制を構築しています。また，本学のステークホルダーからの意見や要望を経営に反映させるべく，毎年ステークホルダー協議会にて，意見交換を行っています。さらに，国立大学法人ガバナンス・コードにおける適合状況を毎年公開し，透明性のある経営を実施しています。



部局長ヒアリング〔平成26年度 導入〕	学長が部局長との面談を通じ，部局運営方針・目標とその成果を，大学全体の運営方針との整合性の観点から調整及び評価を行っています。また，年度終了時において，その達成度について学長自らが評価し，当該評価結果に基づき，次年度の目標設定や部局予算への傾斜配分を行います。
ステークホルダー協議会〔平成27年度から開催〕	在学生，父母等，卒業生，高校関係者，地域住民，企業関係者等の多様なステークホルダーに対し，本学の教育・研究・運営等の状況を報告するとともに，意見や要望を伺う場として，毎年開催しています。 ステークホルダーの皆さまのお声をこちらからご確認ください。 https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/conference/stakeholder
国立大学法人ガバナンス・コード	国立大学法人ガバナンス・コードは，国立大学法人が今後さらに経営の透明性を高め，教育・研究・社会貢献機能を一層強化し，社会の変化に応じた役割を果たし続けていくための基本原則となる規範として国立大学協会が策定したものです。本学は各原則を全て実施しています。

ダイバーシティ推進機構

ダイバーシティ推進機構Webサイト
▶ https://cdl.w3.kanazawa-u.ac.jp/

本学の役員，教職員，学生・生徒等，本学で就労・修学等に従事するすべての者が，相互に，性別，性的指向，性自認，年齢，国籍，障がいの有無やその他の個性に関わらず尊重し合える共生社会の実現を目指して，令和４年４月１日にダイバーシティ推進機構を設置しました。機構は５部門からなり，構成員が資質と能力を十分に発揮できる教育研究環境を実現することを目的としています。

ダイバーシティ顕彰は，本学の女性研究者の研究力強化・リーダー育成等の取組にご賛同いただいた方による寄附金「はあざみ基金」により成り立っています。

「はあざみ基金」の詳細はこちらから
▶ https://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_jinji/danjo/fund/

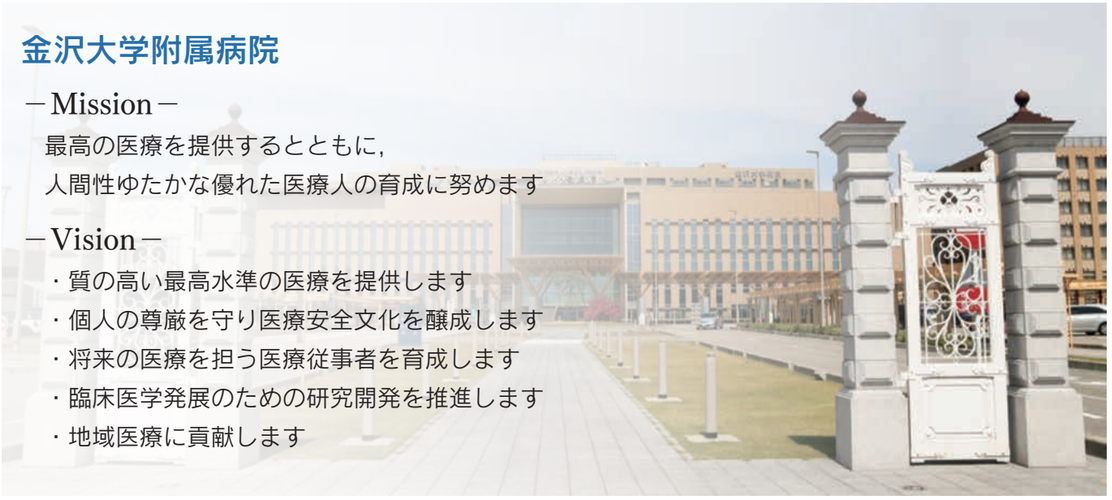
金沢大学附属病院

－Mission－

最高の医療を提供するとともに，
人間性ゆたかな優れた医療人の育成に努めます

－Vision－

・質の高い最高水準の医療を提供します
・個人の尊厳を守り医療安全文化を醸成します
・将来の医療を担う医療従事者を育成します
・臨床医学発展のための研究開発を推進します
・地域医療に貢献します



金沢大学附属病院

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応

附属病院では，令和２年４月からコロナ専用病床を10床確保し，重症患者の受入れを開始しました。同年９月に石川県新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定され，令和３年11月からは石川県からの要請により，感染拡大緊急事態時には12床を確保しました。令和４年度は７月末時点で51名の重症患者を受け入れました。

また，石川県の宿泊療養施設，石川県及び金沢市のワクチン接種会場に本院スタッフを派遣したほか，本院副病院長が石川県コロナ調整本部本部長を，さらに令和４年４月から本院病院長が石川県新型コロナウイルス感染症対策本部会議アドバイザーを務めるなど，県内の感染拡大防止，COVID-19医療提供体制等の確立・維持に貢献しています。令和４年５月からは石川県の要請に基づき，COVID-19後遺症の相談窓口となる後遺症連携医療機関のうち「高度な医療機関」として協力するなど，現在も継続して地域のCOVID-19対策を支えています。

新型コロナウイルス感染症重症患者の治療
（スタッフが朝晩交代で腹臥位療法を実施）

ドクターカーの導入

令和４年３月に，ドクターカーを導入しました。ドクターカーの導入により，医療機関への搬送前に現場へ直接医師等の医療従事者が出動することが可能となるなど，傷病者に適切な処置をこれまでよりも早く行うことができるようになります。また，災害発生時には，被災地域での医療支援が可能となります。

（救急科長・救急部長）
医薬保健研究域医学系・教授
岡島　正樹

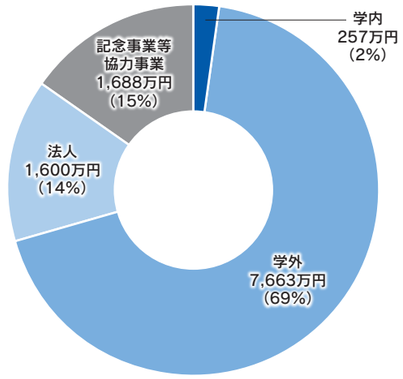
１秒でも早く現場に駆けつけ，
「救えるいのちを救う」。
その思いで，ドクターカーを
運用していきます。

導入したドクターカー

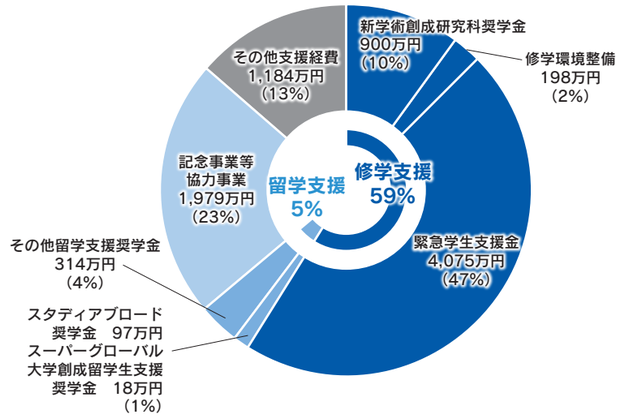
金沢大学基金Webサイト
▶ https://kikin.adm.kanazawa-u.ac.jp/kikin/

金沢大学基金

令和３年度受入額：１億1,209万円



令和３年度支援額：8,764万円



金沢大学基金は平成20年に設立され，これまでの累計寄附額は令和４年３月末現在で11億7,912万円です。皆さまからの多大なる御支援に感謝申し上げます。これからも人材育成に注力し，教育・研究に邁進していきます。

令和３年度は皆さまからの御寄附を基に，新型コロナウイルス感染症拡大の影響による家計急変等によって，経済的に困窮する学生の生活改善に資するように，月額５万円を無利子貸与する本学独自の緊急学生支援金制度を設け，計815名に4,075万円の支援を行いました。また，海外で学ぶ本学の日本人学生や本学で学ぶ外国人留学生への支援も行いました。今後も，安心・安全な学生生活が過ごせるよう，また留学しやすい環境整備のために，状況に応じた支援を実施していきます。

金沢大学基金は，大学全体の活動へ御寄附いただく「**大学基金**」，経済的な理由により修学が困難な学生に対する支援へ御寄附いただく「**修学支援基金**」，学生又は若手研究者の研究活動等の支援へ御寄附いただく「**研究等支援基金**」があり，いずれも税法上の優遇措置が受けられます。特に「**修学支援基金**」，「**研究等支援基金**」は所得控除と税額控除のいずれか有利な方を選択できます。皆さまからの格別の御支援を賜りますよう，お願いいたします。

支援を受けた学生の声

自分とは異なる文化背景を持った人との共同生活を通して新たな視点や考え方を得ることができました。

この留学で得た知識や経験を論文やこれからのキャリアに活かしたいです。

このほかにも支援を受けた学生から
感謝の声がたくさん寄せられています。
https://kikin.adm.kanazawa-u.ac.jp/kikin/syai/message.html

金大病院コロナ基金の設置

金沢大学附属病院では，新型コロナウイルス感染症対策経費への使用を目的として，令和２年５月に「金沢大学附属病院新型コロナウイルス感染症対策基金（金大病院コロナ基金）」を設置しました。令和４年３月までに，皆さまからの心のこもった御寄附を約6,600万円もお申込みいただいており，厚く御礼申し上げます。引き続き御支援のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

金大病院コロナ基金
▶ https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/oshirase/2020covid19_kifu.html

• 基金への寄附金は，税法上の優遇措置を受けることができます。

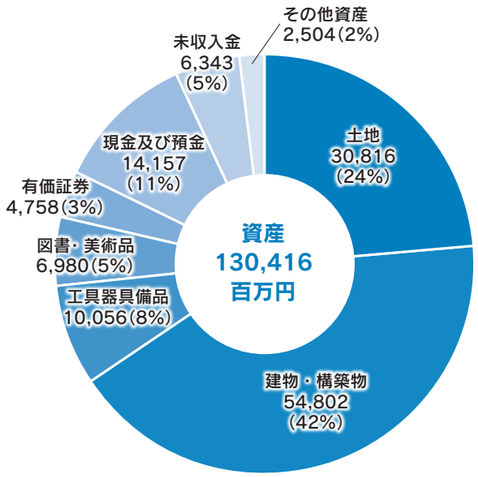
令和３年度財務情報

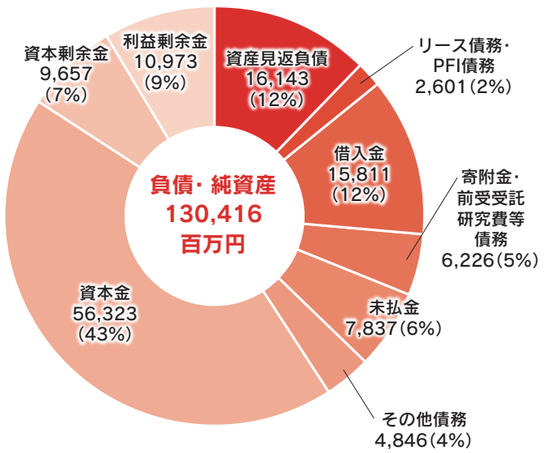
注）各金額については，四捨五入により計が一致しない場合があります。

各年度の詳細な財務情報は本学 Web サイトに掲載しています。
▶ https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu

貸借対照表

財政状況を明らかにするために，決算日における全ての資産（土地，建物，備品，現金，預金等），負債（運営費交付金債務，未払金等）及び純資産（政府出資金，資本剰余金等）を記載し，報告するためのものです。





（単位：百万円）

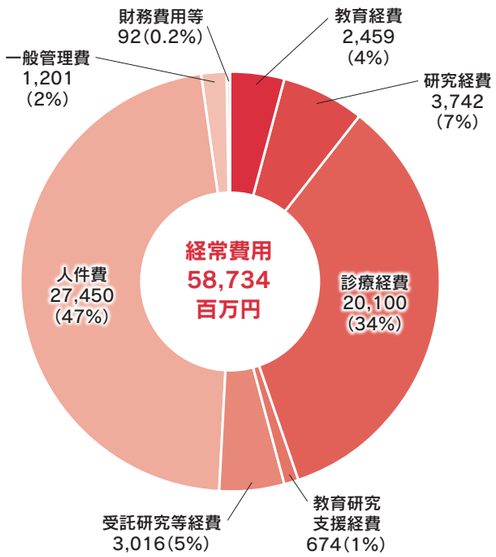
資産の部			
科　目	R2年度	R3年度	増　減
土地	30,816	30,816	0
建物・構築物	56,451	54,802	△ 1,649
工具器具備品	8,314	10,056	＋ 1,743
図書・美術品	6,915	6,980	＋ 65
有価証券	4,236	4,758	＋ 521
現金及び預金	12,071	14,157	＋ 2,086
未収入金	7,499	6,343	△ 1,155
その他資産	1,679	2,504	＋ 825
資産合計	**127,980**	**130,416**	**＋ 2,436**

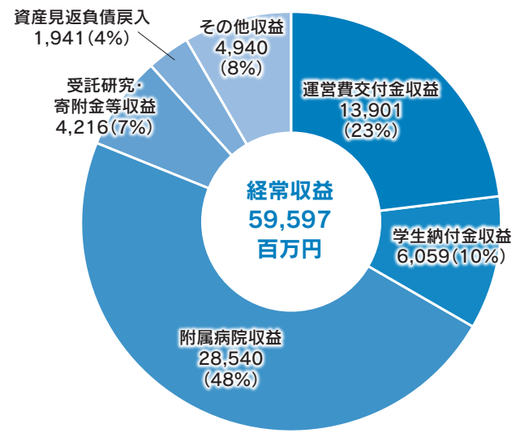
（単位：百万円）

負債の部			
科　目	R2年度	R3年度	増　減
資産見返負債	15,010	16,143	＋ 1,133
リース債務・PFI債務	951	2,601	＋ 1,650
借入金	18,194	15,811	△ 2,384
寄附金・前受受託研究費等債務	5,422	6,226	＋ 804
未払金	7,776	7,837	＋ 61
その他負債	3,597	4,846	＋ 1,249
負債合計	**50,950**	**53,463**	**＋ 2,513**
純資産の部			
資本金	56,323	56,323	0
資本剰余金	10,017	9,657	△ 360
利益剰余金	10,690	10,973	＋ 283
純資産合計	**77,030**	**76,953**	**△ 77**
負債・純資産合計	**127,980**	**130,416**	**＋ 2,436**

損益計算書

事業年度内に本学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することにより，その運営状況を明らかにしています。費用の部には教育，研究等の目的別に，収益の部には国からの運営費交付金や附属病院収入等を財源別に計上しています。





（単位：百万円）

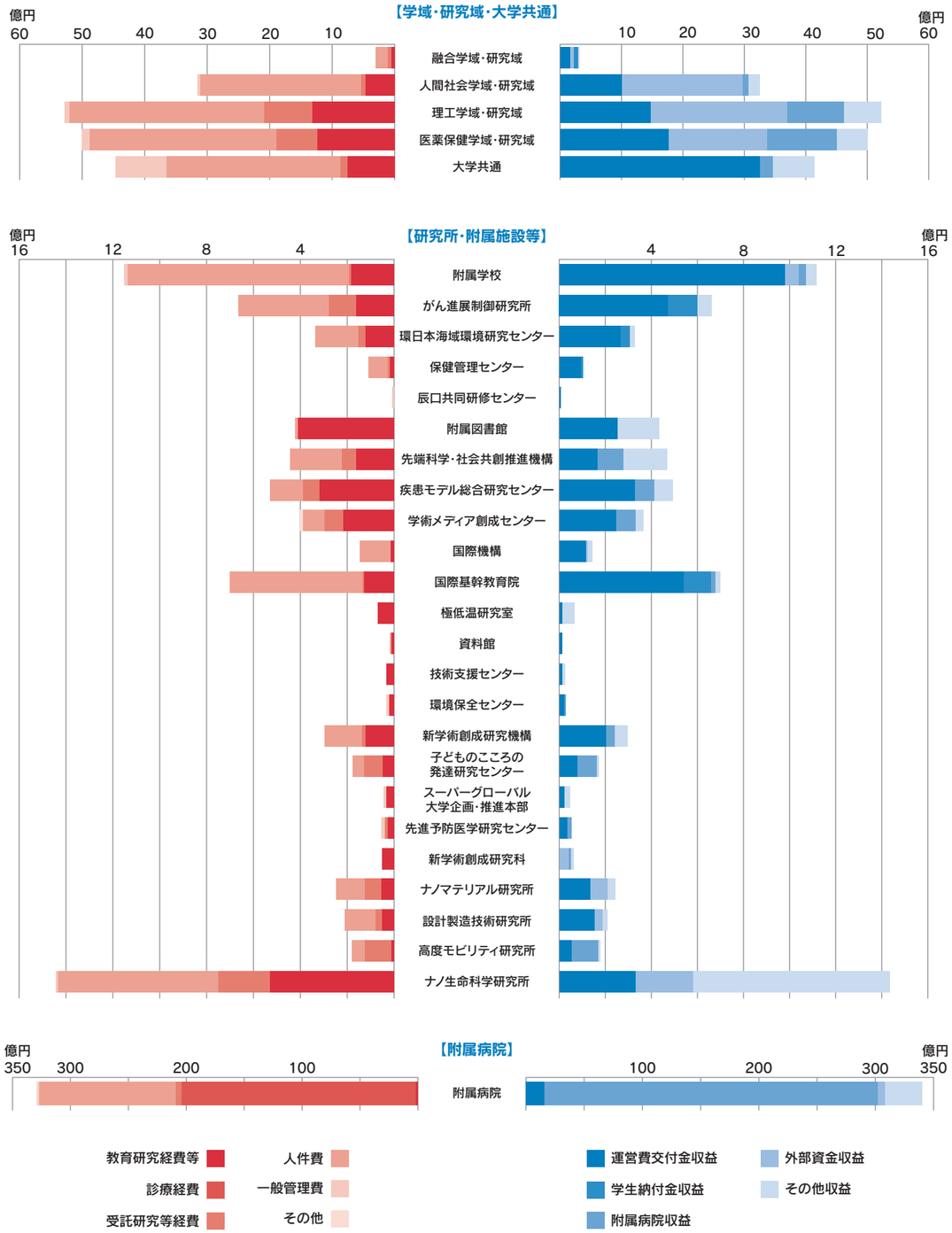
経常費用			
科　目	R2年度	R3年度	増　減
教育経費	2,249	2,459	＋ 210
研究経費	3,638	3,742	＋ 104
診療経費	18,570	20,100	＋ 1,530
教育研究支援経費	441	674	＋ 233
受託研究等経費	2,726	3,016	＋ 291
人件費	26,762	27,450	＋ 689
一般管理費	1,170	1,201	＋ 31
財務費用等	85	92	＋ 7
経常費用合計	**55,641**	**58,734**	**＋ 3,094**
臨時損失	15	44	＋ 30
当期総利益	**1,833**	**1,878**	**＋ 44**
計	57,489	60,657	＋ 3,168

（単位：百万円）

経常収益			
科　目	R2年度	R3年度	増　減
運営費交付金収益	14,177	13,901	△ 276
学生納付金収益	6,044	6,059	＋ 16
附属病院収益	26,835	28,540	＋ 1,705
受託研究・寄附金等収益	3,777	4,216	＋ 439
資産見返負債戻入	1,695	1,941	＋ 246
その他収益	4,719	4,940	＋ 221
経常収益合計	**57,247**	**59,597**	**＋ 2,350**
臨時利益	15	214	＋ 199
目的積立金取崩額	227	845	＋ 618
計	57,489	60,657	＋ 3,168

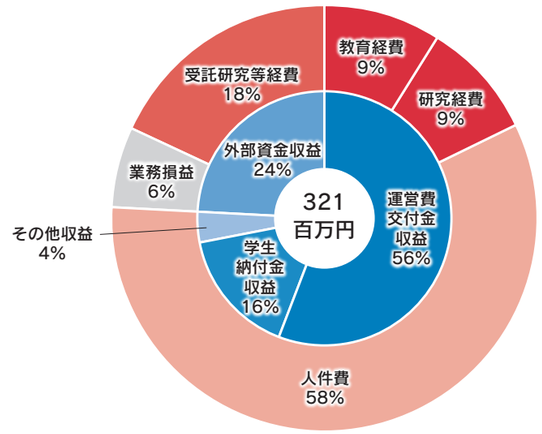
セグメント情報

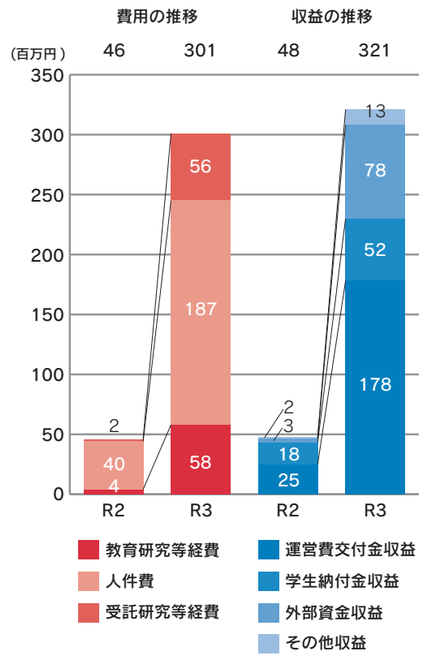
P.24で示した大学全体の損益計算書を学域・研究域などのセグメントに細分化することで，大学内のより詳細な運営状況を明らかにしています。



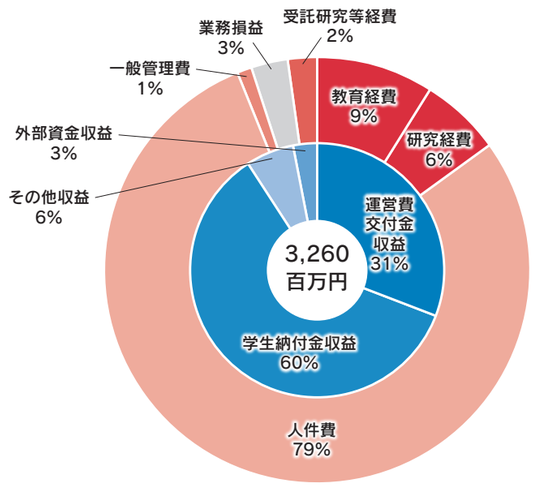
P.25で示した各セグメントのうち，本学の４つの学域・研究域，研究所・附属施設等のうち最も事業規模の大きいナノ生命科学研究所及び附属病院セグメントについて，費用と収益の構成と経年の推移を詳細に示しています。

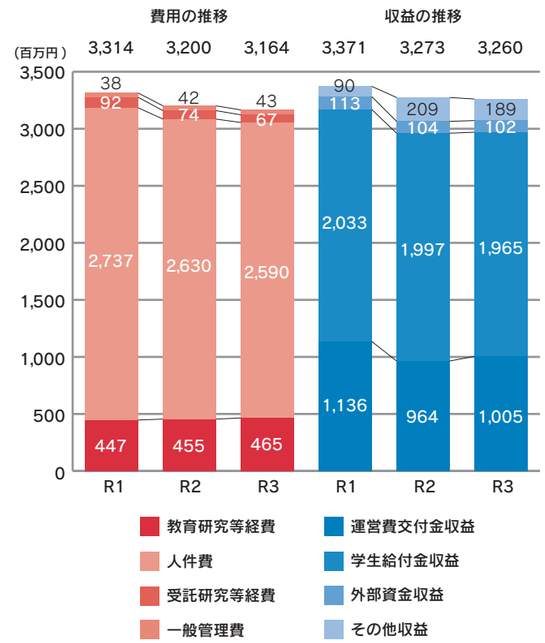
融合学域・研究域



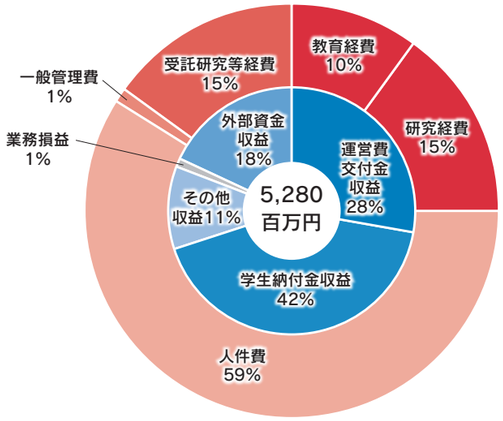


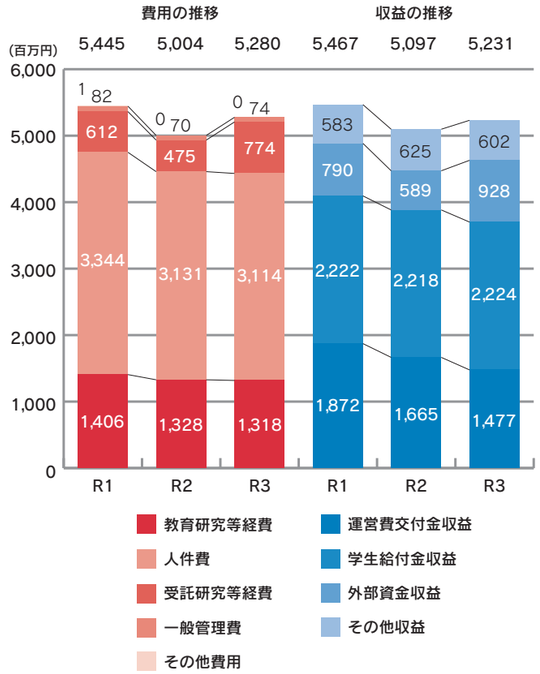
人間社会学域・研究域



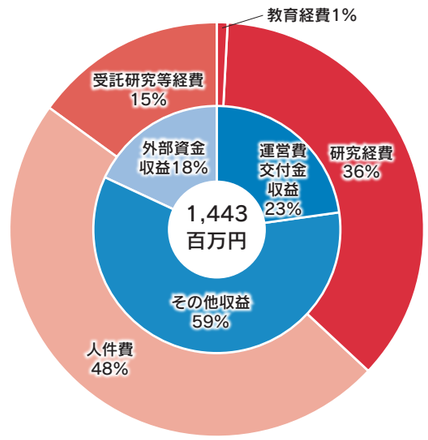


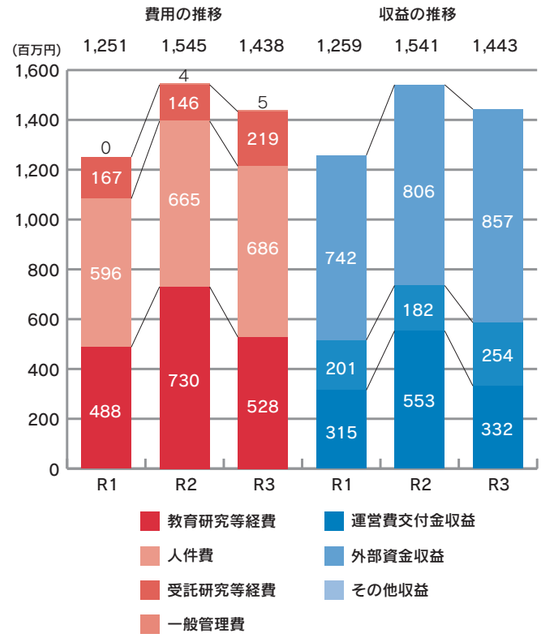
理工学域・研究域



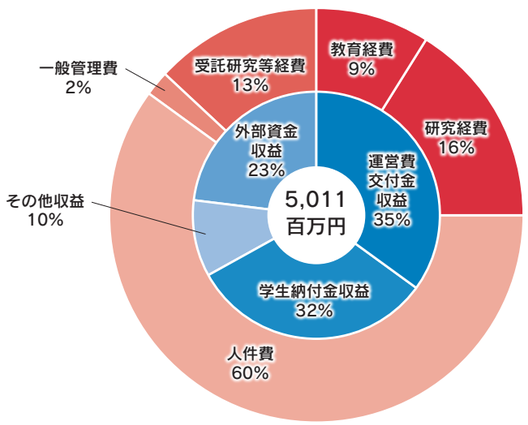


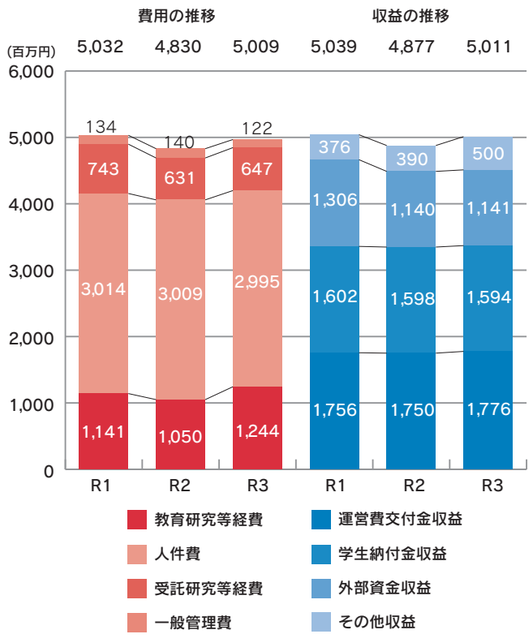
ナノ生命科学研究所



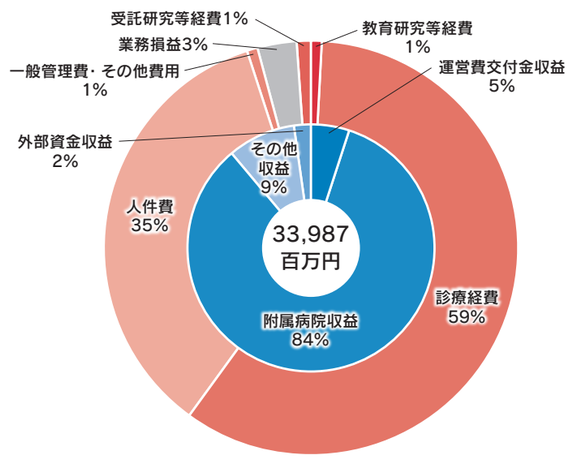


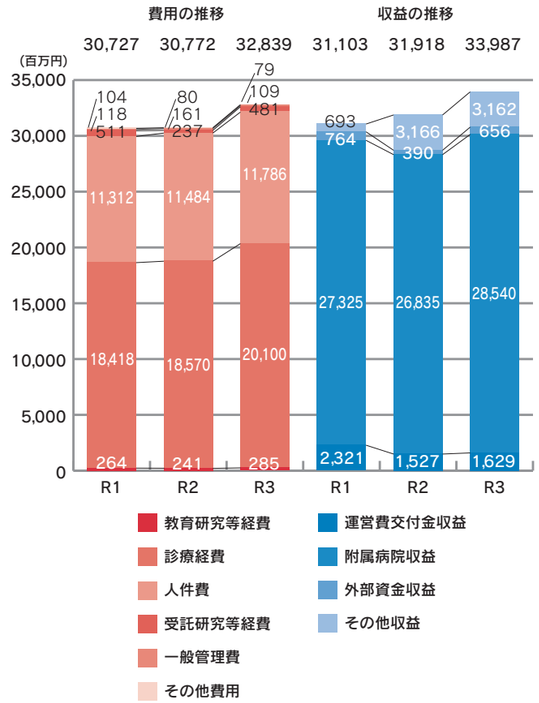
医薬保健学域・研究域





附属病院





コストの「見える化」

令和3事業年度（2021年4月1日～2022年3月31日）

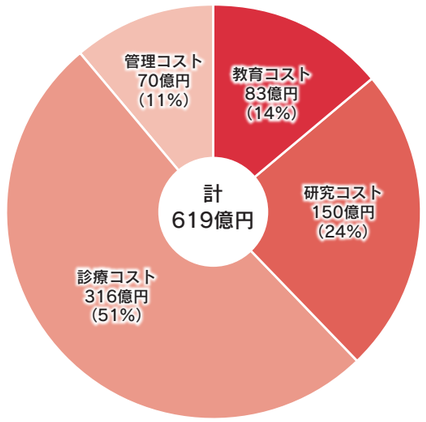
活動区分によるコスト分析

本学では，「教育研究コストの「見える化」による効果的な学内の資金配分の実施」を推進しています。財務諸表上において教育，研究，診療，管理等の経費分類がなされていない人件費を含むすべての経費について，大学独自の積算基準を設け，教育，研究，診療，管理の４つのコスト区分に分類することで，財務諸表上からは直接読み取ることができない教育研究コストの把握とその「見える化」を実施しました。

（単位：億円）

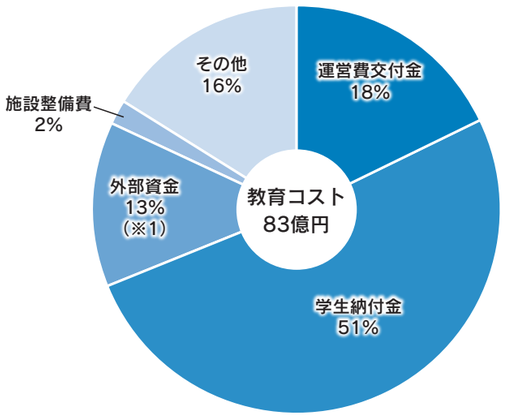
経　費	金　額
教育経費	25
研究経費	37
診療経費	201
教育研究支援経費	7
受託研究等経費	27
受託事業費	3
人件費	275
一般管理費等	13
科研費	14
損益外減価償却	21
引当外退職給付増加見積額	△ 0
引当外賞与増加見積額	△ 2
総　計	619

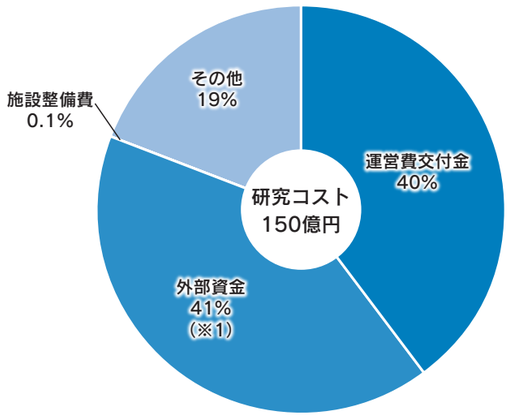
独自の積算基準に基づくコスト分析



教育研究活動を支える財源

本学の業務運営の基盤となる運営費交付金が減少傾向にある中で，本学では自己収入の増加に向けた取組を進めています。令和３年度の教育研究活動の財源は，次のグラフのとおりで，教育コストでは学生納付金が51%，研究コストでは外部資金が41%を占めており，運営費交付金とともに本学の活動を支える重要な財源となっています。





※1：外部資金＝受託研究収入＋共同研究収入＋受託事業等収入＋寄附金収入＋補助金等収入＋間接経費

財務指標の比較とその傾向

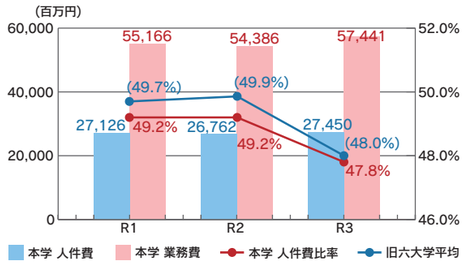
財務指標とは，国立大学法人の財政状態と運営状況を総合的に把握し，分析する上での基礎データです。本学では主な財務指標について，旧六大学（金沢，千葉，新潟，岡山，長崎，熊本大学）の平均と比較して，本学の傾向を把握し，経営判断に役立てています。

なお，国立大学法人における財務分析は，民間企業と異なり利益の獲得を目的としていないため，国立大学法人の教育研究活動自体を評価するものではありません。

①人件費比率（人件費÷業務費）

企業会計では，人件費比率は効率性を示す指標であり，この数値が低いほど効率性が高いとされています。本学は，集中的な研究力強化に向け新たな人事制度（年俸制等）を導入するなど，重点的な資源配分がなされています。

	R2年度	R3年度	増減
旧六大学平均	(49.9%)	(48.0%)	(△1.8%)
金沢大学	49.2%	47.8%	△1.4%

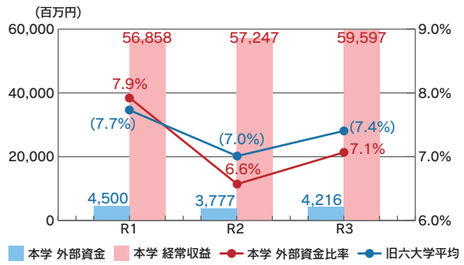


②外部資金比率

（(受託研究収益＋共同研究収益＋受託事業等収益＋寄附金収益)÷経常収益）

外部資金の獲得状況を示す指標であり，この数値が高いほど外部資金の受入れが拡大していることになります。

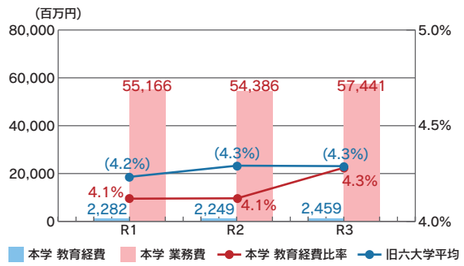
	R2年度	R3年度	増減
旧六大学平均	(7.0%)	(7.4%)	(+0.4%)
金沢大学	6.6%	7.1%	+0.5%



③教育経費比率（教育経費÷業務費）

業務費に対する教育経費を示す指標であり，この数値が高いほど教育にかけられた経費が大きいといえます。

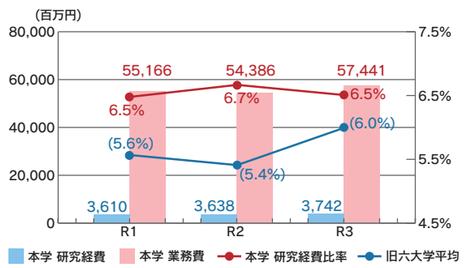
	R2年度	R3年度	増減
旧六大学平均	(4.3%)	(4.3%)	0%
金沢大学	4.1%	4.3%	+0.1%



④研究経費比率（研究経費÷業務費）

業務費に対する研究経費を示す指標であり，この数値が高いほど研究にかけられた経費が大きいといえます。研究経費は増加傾向にありますが，附属病院の手術件数の増加等に伴い業務費（母数）が増加したことによって研究経費比率が低下しました。

	R2年度	R3年度	増減
旧六大学平均	(5.4%)	(6.0%)	(+0.6%)
金沢大学	6.7%	6.5%	△0.2%



統合報告書 Integrated Report 2022

金沢大学 財務部 財務企画課 財務分析係
〒 920-1192 石川県金沢市角間町
TEL：076-264-5050　FAX：076-234-4025
Mail：kessan @ adm.kanazawa-u.ac.jp

統合報告書（Integrated Report 2022）の内容に関する Web アンケートを実施しています。内容の発展・向上に利用させていただきますので，是非皆さまの御意見・御要望をお寄せください。

https://ws.formzu.net/dist/S379916651/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

令和５年１月発行